



2021・4・11

第 406 号

101-0065 東京都千代田区

西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

総選挙に向け、高まる野党共闘への期待

野党共闘の力で政権交代を

【香川県／九条の会・革新懇】 香川県の九条の会と革新懇は6日、政権交代を求めて高松市で集会を開きました。50人が参加。「ワクチンを待つだけでいいのか」「コロナ対策で消費税5%に」の手づくりプラカードを持ち寄りました。

立憲民主党の富野和憲県連代表、日本共産党の白川よう子衆院四国ブロック比例候補、新社会党の井角操県本部委員長、社民党の三野ハル子県連代表らが思いを語りました。

そのなかでは、「消費税導入時には福祉の充実を口実にしたが、今進められているのは高齢者医療の改悪や病床削減です。5%に削減し、命と暮らしを守る政治をつくりだそう」、「東京・小平市では力を合わせて市長選で勝利した。力を合わせて憲法を活かす政治をつくりだそう」との訴えがなされました。

立ち止まって聞いていた高校生(18)は「憲法9条を守ってもらうことに期待しています」、さぬき市から参加した女性(77)は「菅首相は早くやめてほしい。市

日米軍事同盟で強まる役割分担

安倍前首相が16年8月、ケニアでの国際会議で「自由で開かれたインド太平洋構想」を発表したことに基づき、米軍は対中国戦略のなかで、日米共同作戦における自衛隊の役割を急速に強化・拡大させています。

陸自第1空挺団による3月の東富士演習場での米空軍輸送機から行ったパラシュート降下訓練を、米軍は「日米共同の史上最大の空挺作戦」と評していますが、10日は自衛隊員550人がパラシュート降下。11日には米空軍のコンテナ配送システムを使って陸自の貨物134個を投下しています。それによって海兵隊員の食糧、水、弾薬、医療器材などを提供することが想定されています。まさにアメリカの行う戦争に実際に自衛隊が参加していくための訓練です。

これらは日本を防衛するためのものではなく、米軍の対中国戦略に沿った訓練です。「専守防衛」はいまや昔話です。

民と野党の共闘で頑張ってもらいたい」と語

りました。

監視社会めざすデジタル法案

【岐阜県／岐阜・九条の会】

「デジタル庁設置は何をねらっているのか」一。岐阜市で23日、岡本浩明弁護士（岐阜合同法律事務所）を講師にデジタル監視法案の問題点について学習会が行われ、参加者20人が意見交換しました。主催は「岐阜・九条の会」サロン9条・例会。

岡本氏は、菅政権が目玉事業とするデジタル社会の実現をめざすデジタル関連法案は、「すべての国民が恩恵を実感できる社会をめざす」と利便性を強調するが、法案にはプライバシーを保護するための制度がなく、デジタル庁がマイナンバーカードを全国民に持たせ、膨大な個人情報を管理・監視するのがねらいと指摘。諸外国には国を監視する機関があるが、日本は利便性を強調するだけで国を監視する視点が全く欠けていると問題点を強調しました。

参加者から「マイナンバーカードの普及に罰則を伴う義務化が進めば逃げられなくなるのか」「パソコンもメールもできない年寄りがこれ以上監視されると生きていけないのではないか」など心配する意見が出されました。岡本氏は「監視社会にならないためにも、しっかり問題点をつかみ、『これはおかしいぞ』と声を上げて廃案に追い込むことが大事だ」と訴えました。

日米地位協定の不平等性を強調

【奈良県／奈良市九条の会交流会】

奈良市九条の会交流会は3月19日、近鉄奈良駅前で街頭宣伝を行いました。「九条守

れ」との願いを込めて蟻の会の和太鼓で始まりました。

今回の街頭宣伝は、奈良市九条の会交流会の運営委員会で「日米安保と日米地位協定について論議、チラシを作成しました。

日本に主体性がないことを「日米地位協定」の内容や「日米安保条約」の実態を知ってもらう内容。

100枚のチラシを配付しました。同時におこなったシール投票では、「日米地位協定を知っているか」の項目で知っている人と知らない人とほぼ同じ。米軍による空域の支配については知らない人が知ってる人の2倍にもなるなど、不平等な内容が知られていないことが分かりました。

高校生や中学生がシールを貼りながら説明を聞いていました。中学校の授業で「日米地位協定」について教わったが、ドイツやイタリアでは駐留米軍に国内法が適用されることは知らなかったです。

参加者はトークで「私は殺されたくないが私の子どもも殺されたくない。それ以上に殺し合いはしたくない。次の世代も！次の世代も！殺しあうことを見たくない！世界中の人々が思っている。戦争をやめることは簡単だと思う」と訴えました。

蟻の会の方々が嵐の「ふるさと」や「武器をすてろ」などを謳って。……「戦争はいやだ、もう嫌だ！海の底へ武器を捨てる！戦争はもう嫌だ！」…参加者は25名でした。（奈良県九条の会ネットワーク）

選挙権の有効な行使訴え

【埼玉県富士見市／三芳九条の会】

三芳九条の会は3日、富士見市の鶴瀬駅

東口でサイレントスタンディングに取り組みました。

参加者は「アベ政治継承のスガ強権政治赦さない」「スガ政権になってもアベ政治を許さない」「憲法守り生かせ!」「選挙に行こう 政治を変えよう!」などと書かれたプラカードをそれぞれ持ち、通行人にアピールしました。

同行動の参加者は「選挙で政権交代! 先人の運動によって獲得した選挙権をうそとごまかし、国民の自己責任押し付ける政治をもう変えなくちゃという思い出参加しました」と話しています。

広い市民対象の学習めざし論議

【横浜市青葉区／青葉台地域九条の会】

《活動の報告》 会員の皆様から力強い応援の言葉をいただいていたので、久しぶりに3月29日、月例会を開きました。事務局長逝去のニュースも伝わり、心配してくれた人もあったようで、21人という会場の人数制限を多少超えた会員が集まってくれました。

政治情勢について討議し、会員の認識を共通にしておきたいとの意図があったのですが、参加者はどうしても今後の活動をどうすべきかといった問題意識に強く支配されておられ、その種の発言が多くあったものの、具体的な問題提起は少なく、観念的になりがちでした。

そんな中、津波古さんが「田奈高校」に関心を示され、問題提起されたのに対し、NHKが田奈高校の特集番組(ドキュメンタリー?)を放送したとの発言も加わり、結局は津波古さんと吉川さんがまずアプローチ

してみるということになりました。出たとこ勝負なのでそもそも校内に入り、ちゃんと話が聞けるかどうかわからないが、次回例会までにやってもらうことになりました。津波古さんと吉川さんよろしく、当面の期待のお二人です。

このほかには読書会のような形式がやりやすいとの提起もあったが、9条の会の中ならともかく、一般の市民、あるいは若い人を巻き込んでやるとすればどういう種類の本がよいのか思い当たるものがない。また若い人をターゲットにするという意味で、井浦さんが始めてくれた Facebook はツイッターに比べて時間がかかるきらいがあるが、まだ参加していない人は参加して一回り広い市民と話をすることもやってみようではありませんか。

事務局体制の確立も問題になったが、今後時間をかけて、任務を分担しながらポスト柴崎を乗り越え、何とか若返りも図ってゆきましょう。

(「青葉台地域九条の会ニュース」No163)

日米「同盟」深化の姿に警鐘

【東京都足立区／千住九条の会】

4月4日、岐阜大学名誉教授・竹森正孝氏をお招きし第12回憲法カフェを開催しました。竹森氏は冒頭、学術会議問題などを交え、現政権の腐敗、非道さらには、無為無策など憲政の常道を逸脱した政権運営を問題にしたいと述べ、講義を行いました。

はじめに、菅政権の政治によって憲法破壊の政治が継続・進行しており、新自由主義政策のもと、格差、貧困の拡大が起こり、

コロナ対策は無為無策で無責任で、官僚機構の劣化が進み腐敗していると指摘しました。また、バイデンは対アジア（対中国）重視戦略へのシフトで、トランプがいなくなると言えず米中の矛盾は大きい、日米「同盟」の深化でアメリカと一緒に軍事行動していく政策を批判しました。

また、学術会議会員任命拒否問題を詳細に語りました。昨年9月末に105人中、6人が任命拒否された理由が説明されないため、安保法制、辺野古基地建設、共謀罪などに反対する研究者の排除を狙ったものと疑念が消えない。この問題は研究者個人の問題ではないと述べました。戦前、戦中、「学問の自由」への攻撃があり、学問の戦争目的への総動員で、「原爆開発」、731部隊による人体実験等、科学者は自ら手を貸したことに強く反省して創設された学術会議である。二度にわたる「戦争目的」「軍事目的」の研究の否定をおこない、2017年には「軍事的安全保障研究に関する声明」を出した。コロナの問題も新自由主義のもとで経済が最優先され、専門家の意見を聞かず政治的判断が先になっている。この「閉塞状況」打破には市民と野党の共闘で政治の根本的な転換が不可欠で、野党は意見の違いはあるが議論して政策論争をたたかわせていかないとダメだと述べました。草の根の運動で保守派に負けない地域共闘の創出、5年半前の安保法制反対の大きなうねりを再現して政権交代を実現させようと訴えました。

講義後、質問も出され、腐敗した政治から新しい政治に転換せねばと気持ちを新たにしました。

（千住九条の会 中田 順子）

県農協中央会長と9条で懇談

【宮城県／みやぎ農協人九条の会】

みやぎ農協人九条の会は3月12日（金）3時から宮城県農協中央会の高橋会長、高橋常務理事山田会長室と懇談しました。こちらからは三浦会長、佐藤（純）副会長、齋藤が出席しました。初めにみやぎ農協人九条の会より会報「平和と食・農」を手渡し、懇談の経緯と農政等について会報2号「農業政策の大転換を」を簡単に説明しました。

高橋会長は「菅政権は農業に冷たい。成長産業として大規模化、輸出を強調しているが農村はこのままでは崩壊しそうだ。（自分は）政治に関わりたくないが……。このような状況の中で農協の役割は益々大きい。自分は全国農協中央会時代に農協攻撃（安倍政権の岩盤にドリル）を批判すると厳しく叩かれた」又、「現在は農協法改正で中央会が社団法人になり、力がなくなった。

この度のコメ価格下落問題でも主張できない。「コメの価格維持のためには20万トンのくらい備蓄米にと言ったら二階（幹事長）は『今はバックご飯が売れているのでそれを作ったら』と一蹴された。わかってない。食料安保を言うが無責任だ。」

又、「農協人九条の会の趣旨には賛成だ。今、どこの農協も農協を残すことを第一に考えている。」「農業法人化推進しているが法人だけでは農村・集落は維持できない。組合員の利益が重要だ」

今後とも県農協中央会と農協人九条の会は交流することを確認して終了しました。

（みやぎ農協人九条の会 事務局 齋藤清治）